



I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立森田養護	学校			
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習(探究)の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他()					
	単元(題材)名	形を見つけよう					
	単元(題材)の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるものの形に関心をもち、丸や三角、四角という名称を答えることができる。【知・技】 ・身の回りにあるものの形に関心に向け、図形として捉えることで、丸や三角、四角を考えながら見つけようとする。【思・判・表】 ・図形に関心をもち、興味をもって学ぶ態度を養う。【学・人】 					
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学	部	1・2・3	年	5	人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	1・2・3年生の複式学級で、形について未学習の児童から、昨年度学習している児童まで、実態は様々である。本単元で取り上げた3つの形(丸・三角・四角)について、形の名称は理解しているが、四角形の物を見て「三角」と答えたり、三角形の物を見て「四角」と答えたりすることがあった。教室の中から、指導者が指定した形を探す活動を通して、形をより身近なものとして捉え、3つの形について理解を深めることをねらった。					
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	タブレット端末、プロジェクター					
	使用したアプリケーションの名称	カメラ、DropTalk	 				
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援					
	I C T 活用のねらい	タブレット端末や電子黒板機能を使うことを楽しみにしている児童が多かったため、意欲的に学習に取り組むことができるように ICT 機器を取り入れた。発表場面では、発表者も発表を聞いている側も形を捉えやすくするために、電子黒板の機能を活用した。					
活用の状況と支援	教室の中から、指導者が指定した形を見つけ出す学習で、タブレット端末のカメラ機能を使用した。また、撮った写真は、プロジェクターを使ってスクリーンに投影し、電子黒板機能で見つけた形に色をつけるようにした。発表者は、撮った写真に色をつけることで、見つけた形を説明しやすくなり、発表を聞いている側も、指導者が指定した形と合っているのか判断しやすくなった。 タブレット端末が手元にあると、「手はおひざ」と伝えていても触りたくなったり、タブレット端末を使用する際の約束を提示していても、学習に関係のないアプリを開いたりする児童がいたため、指導者の話や友達の発表を聞く場面では、タブレット端末を集め、集中して聞くことができるようにした。						